

北陸圏広域地方計画

基本的な考え方

令和5年7月

北陸圏広域地方計画協議会

はじめに

- ・北陸圏広域地方計画は、北陸圏の国土づくりの戦略として、経済団体、地方公共団体、国の地方支分部局や有識者等による検討・協議を経て、平成 28 年 3 月に策定された。
- ・一方、我が国では、人口減少の深刻化や、新型コロナウイルス感染症拡大など社会経済情勢が大きく変化しており、これらをふまえ「国土の長期展望」や新たな「国土形成計画(全国計画)」など新たな国土の将来ビジョンに関する各種計画の見直し・策定が進められている。
- ・このような国土をめぐる状況変化をふまえたうえで、北陸圏を取り巻く諸課題等に対応すべく、「北陸圏広域地方計画」の見直しを国土形成計画(全国計画)の見直しと同時並行で進めることとした。

1. 計画の策定に当たって

◆社会経済情勢変化

- ・急激な人口減少、少子高齢化
- ・巨大災害の切迫、激甚化・頻発化する自然災害、インフラ老朽化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会的変化(テレワークの普及などの暮らし方・働き方の変化、地方への関心の高まり等)
- ・国際情勢の緊迫化とエネルギー・食料の安定供給

◆法体系等の変化

- ・新たな国土形成計画(全国計画)、国土の長期展望、国土強靱化基本計画、社会資本整備重点計画
- ・デジタル田園都市国家構想
- ・経済安全保障推進法に基づく基本方針(サプライチェーンの強化、基幹インフラの安定性確保等)

◆北陸圏の強み、弱み、機会、脅威

【北陸圏の現状、社会の変化】

1)北陸圏の強み

- ①子育て環境が充実、学力が高い
- ②都市の利便性と農山漁村のゆとりを身近に享受できる居住環境
- ③豊かな自然、豊富な水
- ④歴史・伝統文化、食文化、雪国の文化
- ⑤特徴あるものづくり産業、最先端技術を活かした世界ニッチトップ企業の集積
- ⑥高い再生可能エネルギー導入ポテンシャル
- ⑦三大都市圏と等距離の地理的条件
- ⑧太平洋側のバックアップ機能

2)北陸圏の弱み

- ①全国平均より進む人口減少、少子高齢化(若者の圏外流出、人の移動が少なく価値観が固定化、医療・インフラの維持が困難、防災・福祉の地域力低下、農業従事者の減少と耕作放棄地の増加)
- ②若者や女性にとって魅力的な仕事、働く場所が少ない
- ③風水害や土砂災害、豪雪等の厳しい自然環境

3)北陸圏の機会

- ①デジタル技術の進展(テレワークの普及、スマート農林水産業など)
- ②北陸新幹線延伸
- ③リニア中央新幹線[品川-名古屋間開業](三大都市圏を結ぶ新たな交流圏域の形成)
- ④太平洋側での巨大な災害リスクへの対応
- ⑤カーボンニュートラル(2050年カーボンニュートラルの実現への対応等)
- ⑥SDGsが求める幅広い社会的要請

4)北陸圏の脅威

- ①自然災害の激甚化・気候危機
- ②地震災害リスク

2. 計画期間

- ・本計画の計画期間は、2050年、さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間とする

3. 計画区域と隣接圏・府県との関係

◆計画区域

- ・富山県、石川県及び福井県

◆隣接府県、隣接圏域との連携

- ・より日本海国土軸を意識
- ・リニア中央新幹線(品川－名古屋)開業を踏まえた中部圏との連携

第1章 北陸圏の現状と課題

1. 北陸圏の現状

◆全国平均よりもさらに進む人口減少・少子高齢化

【中間評価や関連指標】

- ・親が孫の面倒をみることのできる環境、地域コミュニティの強さ:高い三世同居率、地域コミュニティ参加意欲
- ・女性の社会参加がしやすく共働きとなることによる子育てにも有利な経済的ゆとり:高い有効求人倍率、身近にある雇用の場、高い女性の就業率、児童のいる世帯における共働き世帯の高い比率、高い世帯収入、高い持ち家比率
- ・教育等含めた子育てしやすい社会環境:優れた初等・中等教育、全国平均や三大都市圏に比べて短い通勤時間(職住近接の確保)、全国に先んじて実施されている企業を巻き込んだ子育て支援施策
- ・一方、北陸圏の人口は全国平均よりも早いペースで減少し、年少人口(15歳未満)の人口減少が著しく、将来人口も加速的に減少と推計
- ・北陸圏は転出超過状況であり、主に三大都市圏へ流出しており、若者(特に女性)の転出が多い

【社会情勢等の変化】

- ・テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の多様な暮らし方・働き方
- ・東京一極集中の是正

◆都市部の空洞化、地方部の過疎化の進行

【中間評価や関連指標】

- ・快適な居住環境:下水道普及率、人口1人当たり都市公園面積、人口1人当たり社会教育費・文教施設投資額
- ・中核都市の接続もたらす魅力ある暮らし:都市部から半島や中山間地域等への雇用・生活サービス・レクリエーション機会の提供、異なる都市個性を持つ都市間での交流とそれを支える交通ネットワーク
- ・都市部では空洞化、農山漁村では過疎化:北陸圏全体の空き家率は全国よりも高く、過疎地域の人口減少がさらに加速
- ・交通弱者の移動手段確保が困難:公共交通サービスの維持が困難な状況
- ・過疎地域における医療サービスの提供が困難:病院や医師の不在

【社会情勢等の変化】

- ・北陸新幹線延伸や高速道路等で都市と多自然居住地域の連携
- ・コンパクト+ネットワーク、小さな拠点、都市の多様性
- ・地域生活圏:人々が安心して暮らし続けることができる圏域、デジタル田園都市国家構想

◆厳しい自然環境と自然災害の激甚化・頻発化

【中間評価や関連指標】

- ・厳しい自然環境もたらす災害、風水害や土砂災害、豪雪等の対策
- ・洪水、土砂災害、雪害などの激甚化・頻発化

◆食料の安定供給と豊かな食文化を担う農林水産業の担い手不足

【中間評価や関連指標】

- ・農林水産業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加
- ・圏域の食料供給力とブランド力の更なる強化:高い食料自給率、北陸ブランドの構築に向けた様々な取り組み、農業・漁業・林業生産額

【社会情勢等の変化】

- ・スマート農林水産業、食品産業

◆高い再生可能エネルギー導入ポテンシャルとゼロカーボンに向けた機運の高まり

【中間評価や関連指標】

- ・高い再生可能エネルギー導入ポテンシャル
- ・北陸圏ではゼロカーボンシティ宣言都市が26都市

◆伝統産業から先端産業まで多様な産業の集積

【中間評価や関連指標】

- ・特徴ある世界レベルの産業の集積:特徴あるものづくり産業の集積(富山の製薬・アルミ、石川の組立機械、福井の炭素繊維等)、多数の世界ニッチトップ企業・シェアトップ企業群(上記に加え繊維、眼鏡等)、製造品出荷額の多い都市の連接

【社会情勢等の変化】

- ・地域産業活性化・競争力向上を目指した DX 推進、新たなビジネス創出等
- ・農林水産業の6次化

◆三大都市圏から等距離の地理的条件と日本海・太平洋 2 面活用の要

【中間評価や関連指標】

- ・三大都市圏から等距離にある地理的条件の優位性:中部圏、近畿圏、首都圏との物流量多い
- ・北陸3港(伏木富山港、金沢港、敦賀港)のコンテナ取扱量の堅調な伸び:日本海側の物流の玄関口
- ・災害リスクを契機として高まる産業立地優位性:首都直下地震、南海トラフ地震等巨大災害へのバックアップ機能強化としての日本海国土軸
- ・交通ネットワーク充実で更なる拡充が見込まれる国内外観光客:国内外からの誘客増加、能越自動車道や東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道及び中部縦貫自動車道による隣接圏域からの観光客の増加、航空便による海外からの観光客の動向

【社会情勢等の変化】

- ・東海北陸自動車道や舞鶴若狭自動車道の 4 車線化にむけた整備、中部縦貫自動車道や能越自動車道の全線開通にむけた整備、北陸新幹線延伸等
- ・経済安全保障、サプライチェーンの再編成、分散型国づくり
- ・太平洋ベルト地域の巨大地震等へのバックアップ
- ・リニア中央新幹線開業による地方と世界を直結する交流機会の増大

◆自然、歴史、食文化等豊富な地域資源

【中間評価や関連指標】

- ・多様な観光資源、食文化、農業資源を活かした、多数の観光誘客:武家・宗教文化・能登半島や立山等を始めとした自然や豊かな食文化、福井の恐竜等個性ある多彩な観光資源

2. 北陸圏の課題

(1) 多様なニーズに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の形成

◆歯止めのかからない若者の人口流出への対応

【中間評価や関連指標】

- ・北陸圏では若者、特に女性の転出が多い
- ・経済指標での優位性や高い有効求人倍率は、人口流出に限定的な効果
- ・若者にとって魅力ある就職先が少ない(特に大学生、大学院生)
- ・若者が余暇を楽しむ施設が少ない

【社会情勢等の変化】

- ・人口減少の中でのコミュニティ再構築(スマートウェルネスシティ等)

◆Uターンを迎え入れる多様なニーズに応える生活環境、雇用環境の形成

【中間評価や関連指標】

- ・圏外に流出した若年層の U ターン率が低い

【社会情勢等の変化】

- ・女性の社会参加の促進
- ・女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022

◆誰からも「選ばれる地域」となるための多様な価値観を受容する社会の形成

【中間評価や関連指標】

- ・北陸圏では若者、特に女性の転出が多い
- ・若者・中高年などの各世代が交流する機会が必要

【社会情勢等の変化】

- ・東京一極集中の是正

- ・テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の多様な暮らし方・働き方
- ・オンライン会議の活用などデジタルの進展に伴って多様化する価値観の受入れ

◆地域の資源・魅力などが学べる環境整備が必要

【中間評価や関連指標】

- ・人口あたりの大学数の多さ、北陸圏内高校卒業者の大学進学先として北陸圏以外が約半数
- ・高校卒業までに、地域に接する機会が少ない
- ・総合学習やシティズンシップ教育、防災教育、脱炭素地域教育、気候変動教育などの機会、対話を通して地域学習・地域課題の取組みを啓発していくことが重要

(2)多様で個性ある地域の持続的発展

◆集約型都市構造への転換と接続した都市の連携強化

【中間評価や関連指標】

- ・富山市、高岡市・射水市、金沢市、福井市を中心とした連携中枢都市圏の形成
- ・北陸新幹線延伸により北陸圏主要都市において新幹線駅が存在
- ・県庁所在地である富山市、金沢市、福井市を接続型都市圏とした場合の人口は100万人を超える

【社会情勢等の変化】

- ・北陸新幹線延伸

◆都市部と農山漁村の連携強化による個性と魅力の向上

【中間評価や関連指標】

- ・都市部から半島や中山間地等への雇用・生活サービス・レクリエーション機会の提供、異なる都市個性を持つ都市間での交流とそれを支える交通ネットワーク、圏域内移動では自動車依存度が高い
- ・都市部の空き家・空き地の増加、過疎地域の人口減少の加速、公共交通、医療サービスの低下

【社会情勢等の変化】

- ・立地適正化計画、地域公共交通計画等
- ・デジタルを活用した地方の社会課題解決
- ・人々が安心して暮らし続けることができる圏域の姿:「地域生活圏」

◆快適で安心できる居住環境の維持・向上

【中間評価や関連指標】

- ・高い市民サービスの水準(下水道普及率、人口1人当たり都市公園面積、人口1人当たり社会教育費・文教施設投資額)、人口減少による都市のスポンジ化(空き家・空き地の増加)

◆半島や中山間地域等での過疎化の進行への対応

【中間評価や関連指標】

- ・半島や中山間地等での人口減少、公共交通の利便性が低い

【社会情勢等の変化】

- ・多様性を支えるふるさと
- ・二地域居住等の促進

◆将来的な社会基盤施設の維持

【中間評価や関連指標】

- ・インフラ老朽化

【社会情勢等の変化】

- ・インフラの老朽化等対策

(3)自然災害への対応と自然環境との調和

◆激甚化・頻発化する自然災害等への対応

【中間評価や関連指標】

- ・気候変動により自然災害が激甚化、頻発化
- ・風水害や土砂災害、豪雪等の対策、自然災害被害額の増加
- ・人口減少、少子高齢化の進む社会における国土の保全管理、インフラの維持、地域防災力の維持
- ・官民連携の防災・減災対策(ハード対策・ソフト対策)の推進

【社会情勢等の変化】

- ・大規模災害等に備えた格子状骨格道路ネットワークの整備
- ・流域治水プロジェクト
- ・グリーンインフラの推進

◆北陸圏の美しく豊かな自然環境等の保全と脱炭素に向けた対応

【中間評価や関連指標】

- ・新エネルギー発電量は全体に占める割合は少ないが増加傾向
- ・水資源が豊富な北陸圏
- ・再生可能エネルギーの高いポテンシャル:脱炭素地域づくりの推進
- ・自然豊かな北陸圏における自然と共生する暮らしの歴史・文化:地域循環共生圏の推進
- ・脱炭素地域と地域循環共生圏の融合:新しい北陸圏の魅力、価値の創造、人・企業の誘引

【社会情勢等の変化】

- ・地域循環共生圏(ローカル SDGs)
- ・ESG 投資の拡大

(4) 地理的優位性を活かした産業の強化

◆特徴あるものづくり産業の集積を活かした競争力強化とイノベーションの取組みの継続

【中間評価や関連指標】

- ・特徴あるものづくり産業の集積(富山の製薬・アルミ、石川の組立機械、福井の炭素繊維等)、多数の世界ニッチトップ企業群(上記に加え繊維、眼鏡等)、企画力と異業種間交流がもたらす時代のニーズやグローバル化への対応、製造品出荷額の多い都市の接続、高い進学率に支えられた高学歴な人材、高い高齢者の就業率

【社会情勢等の変化】

- ・重要物資の安定的な供給確保に関する制度等(経済安全保障推進法)
- ・フューチャーインダストリークラスター
- ・高齢者の社会参加の促進

◆地理的優位性を活かした三大都市圏との連携強化と新産業拠点の形成

【中間評価や関連指標】

- ・北陸新幹線金沢開業、高規格道路等の広域交通ネットワークの充実・強化、関東・中部・近畿との仕事目的の交流、関東・中部・近畿との物流

【社会情勢等の変化】

- ・北陸新幹線延伸
- ・リニア中央新幹線開業
- ・スタートアップエコシステムの確立、中小・中堅企業の DX など
- ・巨大自然災害のリスクへの対応

◆農林水産業の魅力向上による産業の強化と担い手確保

【中間評価や関連指標】

- ・高い食料自給率、北陸ブランドの構築に向けた様々な取組み、農業・漁業・林業生産額、耕作放棄地の増加、農業生産等を行う組織経営体の増加
- ・スマート農業、農作業等熟練作業の ICT 化、ロボット化、新規就農者、女性等参画しやすい環境の構築
- ・就農希望者を支援する施策、組織の育成

【社会情勢等の変化】

- ・農林水産業の6次化や国際展開、農林水産業従事者の減少
- ・スマート農林水産業、食品産業

◆地域経済の成長を底上げする物流の多様化・高度化

【中間評価や関連指標】

- ・東南アジアの発展、エネルギー需要の変化、調達、輸送ルートの多様化、自然災害の激甚化、頻発化

【社会情勢等の変化】

- ・カーボンニュートラルポート
- ・巨大自然災害のリスクへの対応

(5) 太平洋側の災害リスクの高まりにともなう本社機能移転等への積極的な対応

◆太平洋側の広域的な災害リスク等を契機として高まる産業立地の優位性の活用

【中間評価や関連指標】

- ・東日本大震災での日本海国土軸の活躍や、首都直下地震・南海トラフ地震の発生確率の高まりの中で、日本経済活動等の多重性・代替性を担う日本海側の役割の向上、東日本大震災以降の生産拠点や本社機能の北陸への移転等増加、企業立地ニーズに応える北陸

【社会情勢等の変化】

- ・巨大災害の切迫(首都直下地震、南海トラフ地震の30年以内発生確率は70～80%)
- ・東日本大震災で日本海側が果たした役割

(6) 圏域外の人との多様な関係構築と新しい交流圏の形成

◆北陸圏内の地域資源の磨き上げと新しい観光形態への対応

【中間評価や関連指標】

- ・世界文化遺産である五箇山の合掌造り集落
- ・武家・宗教文化など多数の世界遺産暫定一覧表候補地
- ・能登半島や立山黒部等を始めとした自然、豊かな食や食文化
- ・福井の恐竜等個性ある多彩な観光資源
- ・北陸新幹線金沢開業の効果、開業効果を圏域全体に波及することが課題

【社会情勢等の変化】

- ・地域への愛着の醸成
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う観光形態の変化(ワーケーション等)
- ・北陸新幹線延伸

◆観光需要の回復・高まりへの対応と、交通ネットワークの更なる強化

【中間評価や関連指標】

- ・国内外からの誘客増加、高速交通体系の拡充による隣接圏域からの観光客の増加、国際航空便・国際便乗降客数の増加、高齢者による観光需要の高まり、単独県で組まれる観光ツアー

【社会情勢等の変化】

- ・北陸新幹線(金沢～敦賀間の2023年度末開業と大阪への早期延伸要望の高まり)、高規格道路等の広域交通ネットワークの充実・強化

◆関係人口の拡大

【中間評価や関連指標】

- ・北陸圏と他地域居住者との関係の多様化・深化:特産品の購入、ふるさと納税、地域の農業体験、祭りやイベントなどへの参加
- ・観光の幅の拡大、多様な関係を圏域外の人々と構築

【社会情勢等の変化】

- ・関係人口、二地域居住、移住

◆新しい交流圏の形成

【中間評価や関連指標】

- ・インバウンド観光におけるリピーターの増加:大都市圏を入口にして地方へ出向くコースの増加
- ・東京ー北陸ー京都・大阪の新たな「ゴールデンルート」を構築し、新しい交流圏の形成

【社会情勢等の変化】

- ・北陸新幹線延伸
- ・2025年大阪・関西万博の開催

第2章 北陸圏の将来像

1. 位置づけ

「立山・白山連峰から流れる清冽な水と日本海の恵みを受け、雪や雄大な景色の中で育まれた暮らし・文化への誇り・愛着を抱きながら、生活の質・産物の魅力の更なる向上と、人々のつながりの一層の強化により、豊かな未来を創造する北陸圏」

厳しくも豊かで多様な自然、魅力ある都市と農山漁村及び活力ある産業が共生した北陸圏において、多様な暮らし方・働き方を実現できる場を提供するとともに、圏域内外の連携と国内外との交流、関係の創出による地域づくりの推進とサプライチェーン再編成等の受け皿となることで、分散型国づくりを先導する日本海国土軸の中核圏域として位置づけ、その役割を十分に果たしていくことを目指す

これらの概括的な方向性として以下の「将来像」を掲げるとともに、将来像の具体的な状態の達成を目指し、多様な主体が相互に連携して取組みを展開

2. 将来像 「住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸」

【将来像の具体的な状態】

- ・多様な価値観、ライフスタイル、ライフステージに応じた暮らし方ができる
- ・自然災害に対して安全・安心な暮らしが確保されている
- ・自分たちが住む地域に愛着が持てる
- ・就きたい仕事や挑戦したい仕事があり、経済的にもゆとりが持てる
- ・保育・教育・医療・福祉が充実、買い物や交通に不自由せず時間的制約を受けない
- ・豊かな自然と人々の暮らしが調和し、脱炭素地域が実現される
- ・UIJ ターンや二地域居住など、圏域内外の人々から「暮らす場所」「働く場所」として選ばれる
- ・地域の特産品(農産物、水産物)や食文化の人気が高まる
- ・技術革新やニーズの先取りにより、北陸で生産する製造品や技術力の評価が高まる
- ・サプライチェーンの国内回帰や太平洋側で懸念される巨大災害に対する機能分散も含め、生産拠点や本社・サテライトオフィスの適地として多くの企業が進出する
- ・国内旅行、インバウンド、ワーケーション等の訪問先として多くの観光客が訪れる
- ・伝統工芸品や観光資源等の価値の認識が高まる
- ・北陸ファンやゆかりのある人など関係人口が拡大し、つながりが強くなる など

第3章 新しい将来像実現に向けた目標

目標1. 北陸圏での魅力ある暮らしの実現～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

①北陸圏の暮らしに磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現

- ・様々なライフステージにおいて北陸圏域内での就業や暮らしを選択する若者、女性、子育て世代、シニア世代などが増加することで、地域コミュニティの活性化が実現
- ・テレワークやオンライン会議等が普及することで、効率的な時間の使い方ができるようになり、「自分時間」がつけられる暮らし方・働き方のできる地域が実現
- ・北陸圏の企業、地域社会などでダイバーシティが推進されることで、人々がライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる地域が実現
- ・女性就業率の高い北陸圏においては、女性のキャリア形成支援に取り組むほか、様々な機会・場面において、性別にかかわらず、その個性と能力を十分発揮することができる地域が実現
- ・子育て世代（または若年層）が時間的・経済的ゆとりを持てることで、望む人が安心して子供を産み育てられる地域が実現
- ・北陸圏で若者が就きたい・挑戦したい業種、職種の企業が増加することで、北陸圏域内に優れた人材の定着が実現
- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人が増え、関係人口の拡大をきっかけに、地域の担い手候補の裾野の広がりに合わせて移住・定住が促進されることで、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

②都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる地域生活圏の実現

- ・北陸圏域内における公共交通等の利便性が確保・向上され、各都市内や都市間での流動が促進されることで、富山県、石川県、福井県の都市機能等の連携による相乗効果が発揮される地域が実現
- ・高齢化・人口減少下においても地域での生活サービスレベル等の低下が抑制されることで、暮らし続けられる地域が実現
- ・歴史ある町並みや美しい景観等の保全のほか、交通事故の減少による安全な移動空間の確保や道路空間の再編により、北陸圏の優れた住環境や地域づくりが実現
- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人が増え、関係人口の拡大をきっかけに、地域の担い手候補の裾野の広がりに合わせて移住・定住が促進されることで、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

③自然災害に強い暮らしの実現

- ・地震や風水害・土砂災害など、激甚化・頻発化するあらゆる自然災害に対するリスクがデジタル技術を含むハード・ソフト両面による災害対策により低減されることで、北陸圏において災害に強い安全・安心な暮らしが実現
- ・短期間の集中的な大雪など北陸圏の特徴的な問題でもある雪害に対するリスクがデジタル技術を含むハード・ソフト両面による災害対策により低減されることで、暮らしやすい雪国が実現

④美しい豊かな自然環境の保全

- ・立山・黒部や白山などの山岳地帯から身近な里山里海までの生態系や健全な水環境が保全されることで、北陸圏の美しく豊かな自然環境を有する地域が実現
- ・水力発電や風力発電のポテンシャルのほか、水素等を活用した新エネルギーの導入や資源循環等が促進されることで、北陸圏における脱炭素化が実現

目標2. 競争力のある産業の育成～北陸における経済・生産の一層の活性化～

①活力に満ちた農林水産業の形成

- ・農林水産業における生産性の維持・向上が図られることで、食料の安定供給が実現
- ・第一次産業への興味関心の高まりにより就業者が増加することで、活力ある農山漁村が実現
- ・北陸圏が有する優れた特産品や食文化に対する人気が高まることで、地域のブランド力の向上が実現

②競争力と魅力がある産業の形成・活性化

- ・北陸圏の中核的な産業等の生産性が維持・向上することで、国際的にも競争力が高い産業が集積した地域が実現
- ・イノベーションを生み出す新たな産業の創出が促進されることで、魅力的な産業が成長する地域が実現

③価値を生み出す力の向上と新たな需要を取り込む地域産業の活性化

- ・他圏域や海外などから北陸圏域内への本社機能・生産拠点等の移転が進むほか、新しい働き方等の普及によるサテライトオフィスやコワーキングスペースが増加することで、地域産業の活性化が実現
- ・太平洋側からの本社機能・生産拠点等の移転により、太平洋側で発生が懸念される巨大災害に対するリスクが軽減されることで、国内企業等の安定的な経済活動が実現
- ・北陸圏で開催される国際会議や展示会等が増加することで、北陸圏を拠点とした国際的な交流の活発化が実現
- ・経済効果の高い滞在型旅行の拠点である宿泊施設や観光施設のリノベーション、観光 DX が推進されることで、北陸圏への誘客を促進、消費額の拡大を図り、持続可能な観光地域が実現

目標3. 日本海側の中核圏域の形成～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

- ・高規格道路のミッシングリンクや幹線道路等のボトルネックが解消することで、信頼性が高く円滑な物流ネットワークが実現
- ・グローバルサプライチェーンを支える輸送網の構築により、北陸圏域内の港湾・空港における日本海側のゲートウェイ機能が充実することで、北陸圏や隣接圏域などの国際競争力の強化が実現
- ・高速交通等(貨物鉄道を含む)や圏域内の二次交通によるヒト・モノの流動が促進されることで、太平洋側圏域と連携した経済圏域が実現
- ・日本海側の防災拠点やネットワークの形成が促進されることで、太平洋側で発生が懸念される巨大災害の発生時においても、国全体で社会経済活動の維持及び迅速な復旧・復興が実現
- ・北陸圏域内の港湾におけるエネルギー関連資源の取扱量が増加することで、エネルギー受入・供給拠点としての役割を担う地域が実現

目標4. 交流・関係人口の創出～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化

- ・広域周遊を含む質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築、北陸圏の伝統産業や歴史・景観・食文化などの観光資源の磨き上げ、コンテンツの充実化等が推進されることで、国内交流の拡大が実現
- ・文化、自然、食、スポーツ等の分野で、伝統芸能等の特別な体験や自然を活用した体験コンテンツの高付加価値化や海外における北陸圏への誘客イベント等が推進されることで、インバウンド観光の活性化が実現

②三大都市圏等との新たな交流

- ・充実した広域交通により北陸圏域内の新幹線駅や空港の乗降客数が増加することで、交通結節点やその周辺地域において三大都市圏や海外等との新たな交流が実現

③様々な人とつながる北陸圏

- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人や北陸に思い入れのある人が増加することで、関係人口の拡大が実現